



氏名	K.D
所属	工学部都市学科
学年	4年
留学先	ビクトリア大学
留学期間	2026/3/1~2026/3/30

留学レポート Study Abroad Report

今回の留学を通して、英語力の向上だけでなく、日本ではできないような経験や日本とカナダの文化の違いに触れることができました。

大学での授業(写真-1)

このプログラムは月曜から木曜日は授業(9:00~11:30、12:30~15:00)で、金曜日と祝日は自由時間というものでした。私のクラスは日本人が13人、韓国人が1人の計14人でした。授業中は英語でコミュニケーションをとり、日本人同士も英語で話します。授業形態は日本での英語の授業のように受動型のものではなく、グループディスカッションやクラスメイトと意見共有をしたり、配られたプリントに書かれていること(全員違う内容のプリントが配布される)の共有等を行いました。課題は毎日あり、単語等まで調べようとすると、想像以上に時間がかかることもしばしばありました。クラスの雰囲気はとてよく、昼休みも一緒に食べたり、授業終わりに出かけたり、最終日にはみんなで打ち上げに行くなど、大切な仲間に出会うことができました。

大学主催のイベント(写真-2)

ラーニングセンターという施設があり、そこではボランティアの方々と留学生が英語で話をできるというもので、休み時間や放課後に訪れました。そこでは、ビクトリアやバンクーバーでのおすすめの場所や店を聞いたり、世間話をしたりして、英語に触れるという点ではとても貴重な時間でした。

大学主催のイベントが定期的で開催されており、それに何度か参加しました。中でも印象に残っていることはクライミングをしたことです。大学施設内にジムがあり、そこに高さ20mほどのクライミングコースがあります。ハーネスを装着して、施設の方の手助けのもと登ることができます。はじめはこんなに高いものは登れないだろうと考えていたのですが、初心者用のコースかつつかむホールドを気にせずに上ると、容易に登ることができました。私の友人も最高点まで到達していたので、誰でも登ることが可能だと思います。また、このクライミングは特別なシューズ等は必要なく、動きやすい服装と運動靴であればだれでも登ることができるのもよかったです。

ホッケーゲーム(写真-3)

ビクトリアではアイスホッケーの試合を観戦することができました。カナダではアイスホッケーはメジャーな競技で、子どもから大人まで幅広く親しまれているスポーツです。私はアイスホッケーのルールもそれほど詳しくありませんが、せっかくカナダに来たからには観戦しようと思い、見に行きました。

会場全体が一丸となって応援をしている雰囲気を楽しめたことはもちろん、試合中に殴り合いが始まったり、ペナルティで数分間退場させられていたり、ベンチとフィールドの出入りがいつでも可能なことなど、私にとってはすべてが新鮮なもので、大変観戦しに行った甲斐がありました。試合も 0-2 と負けていたところから 5-2 で終了するなど、劇的な大逆転だったので、非常に興奮しました。ぜひもう一度見に行きたいと思うほど、興味深い体験となりました。

バンクーバー旅行(写真-4, 5)

ビクトリア大学のアディショナルコストアクティビティとしてバンクーバーに行きました。バンクーバーではゴンドラで山を登ったり、吊り橋を見たり、ガスタウンに行ったり、アウトレットに行ったりと充実した2泊3日の旅を過ごせました。ゴンドラで登った山は大変景色がよく、さらに頂上付近は雪が積もっていたため、多くの人がスキーやスノーボードを楽しんでいました。アウトレットはバンクーバー国際空港に近いため、迫力満点の飛行機を真近で見ることができました。

最終日ビクトリア島に戻る際に、フェリーが70分ほど遅延するというハプニングにも見舞われました。しかし、アクティビティにはビクトリア島のフェリーターミナルから大学までの送迎があったため、心配なく移動することができました。しかし、大学から家への最終バスまで40分ほど時間があったため、寒い中大学で待機していました。家に着いた頃には日付が変わっていましたが、今となってはそれも含めて思い出となっています。

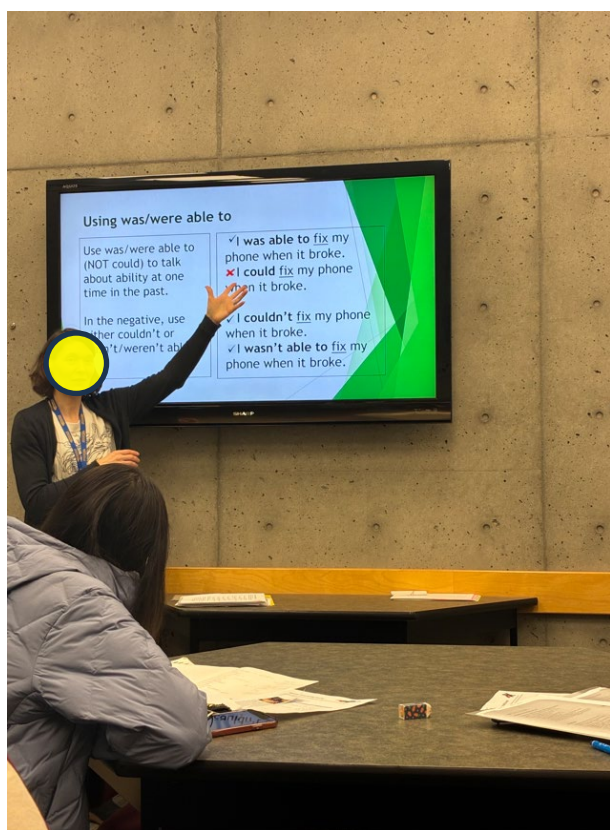


写真-1



写真-2



写真-3

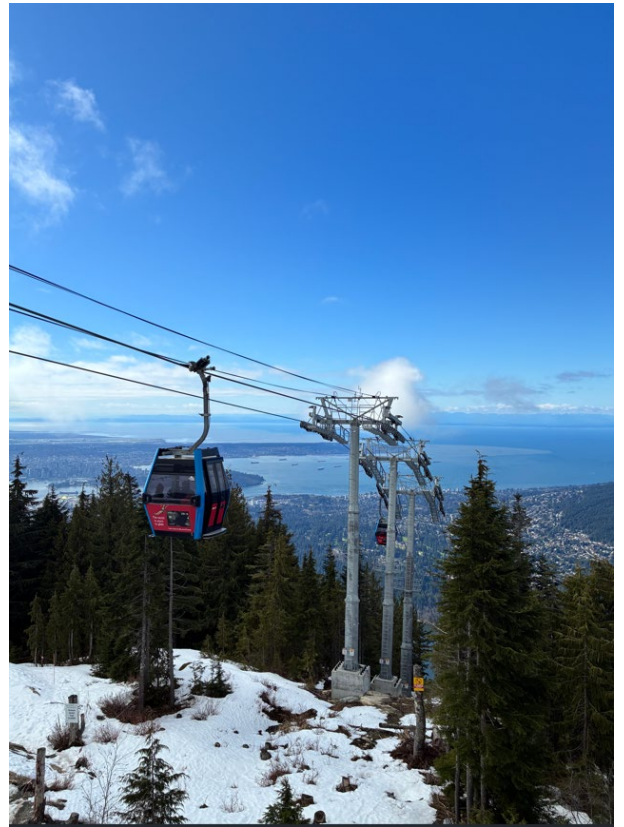


写真-4



写真-5